溝口祭典会報紙
こもれび
2023（令和５）年７月　No.160

受け継がれていくいのち

小紙が出る七月半ばには、炎天下にエサを探し求めて歩き回るたくさんの働き者のアリが目につくと思います。

アリは時間を惜しんで一生懸命に働くイメージですが、『働かないアリに意義がある』の著者の長谷川栄祐氏によりますと、実は巣の中では二割くらいが労働をしないで、自分の体を舐めたり、目的もなく歩いたり、ただぼーっと動かないでいたりするそうで、ちょっと滑稽（こっけい）です。

全員が働くアリだけを集めても、その二割が働かなくなり、逆に、働かないアリだけを集めると、八割が働き始め、やはり二割が働かないままという実験結果だそうです。「全員が同時に働いたほうが、瞬間的な生産性は高いのに、なぜ全体の効率を下げても働かない者が必ず現れる仕組みをアリが採用しているのか？」前述の著書で次のように説明しています。

「何か有事があったり、また全員が疲れて働けなくなると、誰かがいつもやっていなければいけない重要な仕事をこなすことができなくなり、（二割の）働かないアリはその時にはしっかりと働き、コロニー（集団）が大きなダメージを受けることを回避します。」

また、「彼らには直近の未来の効率ではなく、遠い未来の存続可能性に反応した進化が起こっている。皆が一斉に働くシステムは直近の効率が高くても未来の適応度は低いのです。（中略）四十億年間を生き抜いてきた生物たちが、効率より存続を優先していることが、無駄（むだ）の重要性をなにより物語ります。無駄こそ人間の証なり。」と締めています。

さて、この十年ほどで、儀礼的なこと（葬儀）をしないで、ただ火葬だけ（直葬）をする人がずい分と増えてきました。人ひとりの最期を、あたかも無駄を省くように、簡易に、より安価に済ませうとしている風潮に深く疑問を感じながら、弊社は直葬の需要に応えています。

一般的に大事なものは大切に扱うように、大事な家族の最後を大切に扱わないことは、ひいては重要ないのちの考え方にも影響を及ぼしかねないと危惧いたします。

無駄のように思われる「葬儀」ですが、故人と遺族が受け容れ難い死を受け容れるために、時間を掛けてお別れをし、また儀礼を行うことが必要です。「アリの二割」は、私たちの内にある、いのちを引き継ごうとする真なる自分のように思います。そこに、人間として生き抜く姿を感じてなりません。

株式会社 溝口祭典 溝口 勝巳

ちいき共生 ～お節介屋のぼやき～

第一回　どうする？認知症

「高齢者あんしん相談センター」？
「地域包括支援センター」？

右の二つの名前。どちらも聞いたことがあるような、ないような…。どっちが本当の名称なの？

正解は、どちらも正しい名称です。全国の市町村が設置主体となっており、正式名称が**「地域包括支援センター」**なのですが、**包括**って何するところ？など、わかりにくいという意見が多く、愛称を付けている市町村も多いようです。八王子市では**「高齢者あんしん相談センター」**の愛称で市内二十一か所に設置されており、語末には各事業所の地域名がつけられています。事業内容を一言で表しますと〝高齢者のよろず相談所〟とでも言いましょうか。

自己紹介が遅れました。私は市内中央部にある高齢者あんしん相談センター旭町に勤めております一ノ瀬と申します。今回ご縁があり、会報誌こもれびでコラムの連載をさせていただくこととなりました。

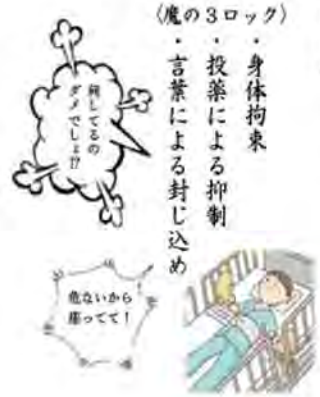
超高齢社会を爆進中の日本ですが、誰かが助けてくれるであろうという時代から、昨今は「自分たちでどうにかせにゃならん」という流れにどうやらあるようです。このコラムでは超高齢社会を過ごすための情報発信をしつつ、あくまで私見である〝ぼやき〟を織り交ぜ、楽しく連載できればと思います。

第一回目は認知症についてですが、まずは認知症施策についての歴史から…

【ケアなきケアの時代】

一九六三年に特別養護老人ホームが創設されました。認知症（当時は痴呆症）という病気に対する社会的認識はなく、支援策も皆無に等しい時代でした。介護に対する理念や方法論もないまま、問題行動と呼ばれていた**行動・心理症状**に対して「魔の3ロック」が標準的に行われていました。

〈魔の3ロック〉
- **身体拘束**
- **投薬による抑制**
- **言葉による封じ込め**



当時のケアは、完全なる「介護者都合のケア」で、〝痴呆（認知症）〟のレッテルを貼られた者へは、緩和ケアという概念は存在しませんでした。地域における病気への理解や支援が得られぬまま、家族介護者も孤立し、心身の負担は極限まで追い詰められました。

～行動・心理症状（BPSD）～
周囲の不適切なケアや
身体の不調や不快、
ストレスや不安などの
心理状態が原因となって
現れる症状

【新しい認知症ケアの夜明け】

一九八四年になると、行動・心理症状にも個々の状態に応じた、それぞれの背景や意味があることに気付いていきます。環境重視と個別ケアの芽生えで、「本人本位」という概念が誕生しました。

- **寄り添う**　・**付き合う**
- **寄わない**　・**断ち切らない**

…といった関りと、暮らしの継続性を重視するようになりました。

〈認知症基本法案（東京都保健福祉局資料より）〉
認知症の予防を推進しながら、認知症の人が尊厳を保持しつつ社会の一員として尊重される社会（＝共生社会）の実現が目的

【ようやく国の施策に…そして】

一九九〇年代に入ると、ようやく国が認知症支援に対する施策を示し始めました。（高齢者保健福祉推進十か年戦略　新ゴールドプラン　一九九四年　等）

そして今年の六月十四日、ついに国会で「共生社会の実現を推進するための認知症基本法案」が可決されました。

ケアなきケアの時代から実に六十年…ここまでくるのにどれだけ多くの過去の不条理が礎となってきたのか…と考えてしまいます。今後の国の本気に期待です。

【どうする？認知症】

近い将来に自分が、或いは自分の身内が認知症かも？と思ったときに、さてどうしましょう？二年後には高齢者の五人に一人が認知症と言われています。今や、決して他人事ではない問題となりました。

―どうする？

「どうしたらいいかわからない」
「誰かに相談…できるかなぁ…」
「家族以外には知られたくない」
「親戚やご近所へは言えないなぁ」
「その時はその時、なるようになるでしょ！」

…等々、意見は様々です。

知られたくない、という気持ちはあって当然です。一方で、六〇年以上前からの〝認知症は周囲に隠す〟から〝カミングアウトできる環境〟へと時代が変わりつつあることも確かです。

残念ながら、今は認知症の治療薬はありません。でも、「どうしたらいいか」の選択肢の一つに〝身近の高齢者あんしん相談センターへ相談する〟を入れていただきたく思います。早めに相談することで対処法によっては認知症の進行が緩やかになる可能性もあるそうです。

「なるようになる！」も、ずっと続けばいいのですが、何かトラブルになる前に予備知識として耳を傾けても損はしないのでは、とも思います。

センターで相談の際に
お渡ししている冊子の一部

65歳未満の方の
相談窓口もあります
（日野市）

今回可決された国の法律が浸透するまでは少し時間が掛かりそうですが、ここまでの道のりが後戻りすることはないでしょう。戻ってしまう要素があるとすれば、それは私たちが持つ偏見…でしょうか。

前述した「認知症基本法案」では、国民が認知症に対する正しい知識を深め、偏見をなくすことも目的の一つとなっているようです。いくら国が「本気」で施策を打ち出しても、私たちの偏見が変わらない限り、絵に描いた餅なのでしょうね。

私たちにできること、まずは認知症について間違った認識や偏見を見直すこと。その第一歩として、「認知症サポーター養成講座」があります。認知症について正しく理解し、認知症の人や家族を温かく見守り、できる範囲で支援する応援者（サポーター）をつくる活動です。受講お問い合わせはお近くの高齢者あんしん相談センターまで…。

植木の里親 やましたグリーン　半纏に猫（はんてんにねこ）

【最終回】

前回は怪我をしたことがきっかけで、個人事業から法人になったお話をしました。今回は、その後の会社がどのように成長していったかをお伝えしたいと思います。

「人の喜びに貢献できる仕事をする」「庭師を子どもたちが憧れる職業No.1にする」という二つの理念を掲げて法人として再出発しましたが、すでにその頃は「庭じまい」という言葉が流行るほど庭は減少し続けていました。

そもそも庭とは、多様な植物や石などの自然物を集め、身近に自然を感じるために造られる自然の縮図です。そのために集められた植物たちが、「庭じまい」の広がりと共に不要となり、伐採処分されることが時代のニーズになっていました。私もそのニーズにあわせ、庭の植木を伐採処分する仕事を行いながら生計を立てていました。

ある日、いつものように伐採の仕事で訪れた庭で、家主の女性が伐採予定の植木を眺めながら、

「この植木は亡くなった主人が大切に育てていた思い出の植木なの。本当は伐採したくないのだけど、しょうがないわよね…」

と涙を流しました。それを聞いた私は、このまま伐採することが庭師として間違っているように思い、思わず「それでは、うちの資材置き場に移植して育てます！」と口にしていました。

それを聴いた女性は大いに喜んでくれて、何度も何度も「ありがとう！」と言ってくれました。

思わず口にしてしまったことですが、「人の喜びに貢献できる仕事をする」という理念が実現できた瞬間だと、自分でも感動したことを覚えています。

それ以来、植木の伐採依頼があるたびに、樹齢や植えられた経緯、家族との思い出などをヒアリングするようにしました。

「大好きだったおばあちゃんと梅の実を一緒に収穫してつくった梅ジュース」

「幼い頃に二階から転落したときに枝に引っかかり、命を助けてくれた桜の木」

「まっすぐに育つようにと、自分が生まれた記念に両親が植えてくれた沙羅の木」

そこにはたくさんの家族と植木の物語がありました。

私たちは可能な限り、伐採するのではなく植木を生かしたまま引き取ることを提案し実践していきました。お客様は皆喜んでくれて、私もやりがいを感じながら植木を引き取っていきました。想いと勢いで進めていきましたが、資材置き場に移植でき植木の数にも限りがあります。そこで考えたのが、植木を育ててくれる里親さんを探すということでした。これが「植木の里親」活動の始まりです。

ありそうでなかった活動とよく言われますが、これまで誰も手掛けなかったのは理由があります。それは、「引き取った植木たちの管理には手間暇がかかる」「庭じまいが広がる中、植木の里親探しはどうする？」という大きな課題があるためです。この2つの課題を解決しなければこの事業は頓挫してしまいます。

そこで私が考え出した解決策は次の通りです。

一、見習い庭師が植木の管理をすることで技術向上を図る。

植木の管理に必要な剪定作業は庭師には必須の技術ですが、その技術習得には時間がかかります。なぜなら実践練習できる機会がほとんど無いからです。お客様宅の植木で練習するわけにはいきませんので、見習い庭師たちは、文字通り先輩が剪定する植木を見て覚えることが慣例となっていました。そのため剪定技術の習得には長い年月がかかるという課題がありました。そこで引き取った植木たちに剪定の練習に協力してもらうことにしました。「技術習得に時間がかかるという課題」と「管理に手間暇がかかるという課題」をぶつけることで一つ目の課題を解決することができました。

二、植木の管理地を解放して、たくさんの人にこの事業を知ってもらう。

里親を探している植木たちがいるということを知ってもらえれば、里親になってくれる人が増えていくだろうと考えました。そこで、植木たちの管理地を「もらえる植物園」と名付け、いつでも誰でも訪れることができるスポットとして開園しました。この植物園では、剪定教室や餅つき大会などのイベントを毎月行うことで、認知を広げていきました。ユニークなネーミングということもあり、多くのメディアにも取り上げられ、里親になってくれる人は増えていきました。

この活動をもっと広く社会に知ってもらうために、国や東京都を始め様々な団体にアピールしたところ、環境省グッドライフアワード、グッドデザイン賞など、人と環境に優しい活動として認めてもらうこともできました。

現在ではSDGsの認知拡大に伴う環境意識の高まりも追い風となり、個人の方以外にも、企業や様々な団体が里親になってくれています。

「庭じまい」が広がるこの時代でも、庭師の技術と知識で「人の喜びに貢献できる仕事をする」ことはたくさんあると思います。私は一人の女性の涙からそれを教えてもらいました。

これが、かっこいい庭師に憧れた私のここまでの物語です。

街で猫の半纏を見かけたら、その意味を聴いて見てくださいね。最後まで読んでいただきありがとうございました！

株式会社やましたグリーン
代表取締役　山下 力人

やました りきと／山下 力人　株式会社やましたグリーン 代表取締役

1977年東京都八王子市鹿島にて生まれる。庭師として12年の修行の後、やましたグリーンを設立。心理カウンセラーの資格を持つ庭師歴27年の「心の庭師」。2012年に伐採予定の植木を生かしてあげたいと自社の敷地に植栽したことをきっかけに「植木の里親」活動を開始。SDGs事業に取り組む先進企業として様々な賞を受賞。現在は、環境創造会社として「植木の里親活動」「もらえる植物園」「サスティナブルガーデン」の環境循環型の3つの事業を柱に、より良い環境社会の実現に取り組んでいる。

【受賞歴】 2019年　第17回多摩ブルーグリーン賞「多摩みらい賞」を受賞
2021年　第9回グッドライフアワード審査委員特別賞「森里川海賞」受賞
2022年　GOOD DESIGN賞 BEST100に選定される

保育園園庭／里親引き渡し

新年おもちつき大会

大好きなペットを すてきな絵皿に。

― お写真のようにお作りいたします ―

弊社・こすもす家族会館の受付で働いている中平比登美さんを会員の皆さんにも是非ご紹介したいと思います。

中平さんは、本年六月に開催された、第六九回全日肖展「小作品部門」で、見事に最高位の金賞を受賞しました。全日肖展は全日本肖像美術協会が主催する国内唯一の肖像画専門の公募展で、一九五四年に公募展第一回「全日肖展」を開催し、現在まで毎年継続して東京都美術館において公募展を開催しています。

中平さんは、大学の教育学部美術科を卒業し、中学の美術科教師をしていました。その後、建築士の資格を取得しパソコンを駆使して、建築に必要な完成予想図を描くことを本業としていましたが、ふと筆をもって自由に絵を描きたいと思うようになったそうです。そんなときに上絵付けを知り、その美しい仕上がりに魅了され、食器メーカーの「ノリタケ」の上絵付け教室に入り、当時住んでいた長野から名古屋まで通い、本格的に磁器に絵を描く技術を習得しました。

その教室主催の展示会に、家族のペットを描いた絵皿を五枚出品したところ、そのリアルな表現が大好評を博し、ペット画制作の注文がはいってくるようになりました。

ご注文いただく作品は、もう天国に逝ってしまったペットが半分以上とのこと。写真を預かり作成しますが、わんぱくか、おとなしいのか、甘えん坊なのか、頑固なのか等々、一匹一匹の個性などを飼い主さんに取材し、単なる模写ではなく、そのペットの個性が絵から感じられるように描くことにしているそうです。

愛するペットを失っても、その絵があることで、いつでもそばにいると飼い主さんが感じられるように描くことを常に心がけているそうです。作品をみせてもらいましたが、どれをとっても本当に愛くるしく、「写真みたい！」ではなく、「生きてそこにいるみたい！」に感じるものばかりです。

中平ひとみ
（Nakadaira Hitomi）

東京都出身。千葉大学教育学部美術科卒。現在デザイン事務所主宰。元日本アーキテクチュラル・レンダラーズ協会理事。二級建築士、インテリアコーディネーター。八王子市在住。

二〇一六年九月ノリタケチャイナペインティングコース修了。以降、個展・展示受注会を毎年開催。

【入選入賞歴】
二〇二〇年第七二回中美展入選、新人奨励賞受賞。
二〇二一年全日本アートサロン絵画大賞展入選。
第六七回全日肖展小作品部門入選＆佳作受賞、会友推挙。二〇二三年第六九回全日肖展小作品部門入選＆金賞受賞、準会員推挙。

作品はお皿へのレイアウト案を作り、注文主さんに了解をいただいてから制作、お届けまで四か月程度かかりますが、皆さん出来上がりを心待ちにしているようです。

全日本肖像美術協会の方からは、来年は絵皿の本場、フランスの作品展への応募を勧められているそうです。

これまでドッグカフェや画廊で何度も個展を開き依頼を受けてきましたが、今回、特別に中平さんの作品をこすもす倶楽部会員の皆様にご案内いたします。

17㎝四方の絵皿にペットを描き、金での縁取りとペットの名入れをし、さらにオーダー製作の36㎝四方の額に入れた6万6千円の作品を、消費税サービスの6万円で申し込めるとのこと。枚数限定となります。ご希望の方は、溝口祭典042-642-0921までご連絡ください。その後に中平さんが直接お電話等でご連絡いたします。

ペットを飼っていたら絶対に申し込みたくなる愛らしさです。

↑ こちらが今回のご案内のものです。

ホームページの
アクセスは
こちらからどうぞ。

無料セミナーのご案内

「葬儀保険ってどんなもの？」 ～葬儀費用と葬儀保険について～

お葬式はいくら位かかるの？など、よく尋ねられる疑問にお答えしながら、葬儀費用についてご案内すると共に、弊社で扱っている「葬儀保険」についてもご説明いたします。年齢など教えていただければ掛金などの計算表も事前にご用意いたします。

日　時	**8月23日（水）午前10時～11時**
定員・参加費	10名 ／無 料
会　場	こすもす斎場（八王子市元横山町 2-14-19）

「お片付けセミナー」～生前整理・遺品整理のプロに聞いてみよう～

葬儀社からだけでなく、地域包括支援センターや行政からの依頼を受けセミナーを多数開催している、生前整理・遺品整理のプロがお片付けのあれこれを教えます。

日　時	**9月10日（日）午前10時～11時**
定員・参加費	10名 ／無 料
会　場	こすもす斎場（八王子市元横山町 2-14-19）

映画「おくりびと」の世界を体験 ～現役納師による葬儀前の納棺を実演します～

納棺に関する様々な疑問・質問にお答えします。希望者は実際にお棺に入る入棺体験も可能です。遺族にならないと経験できない、納棺の儀式をぜひ体験してみませんか。

日 時・1回目	**10月20日（金）午前10時～11時**
日 時・2回目	**10月26日（木）午前10時～11時**
定員・参加費	7名 ／無 料　まちゼミでもご案内しています。
会　場	こすもす斎場（八王子市元横山町 2-14-19）

セミナーはお電話で、事前にお申込みください。

TEL.042-642-0921 株式会社 溝口祭典

こもれび7月号（次回は10月15日発行）2023年7月15日 発行 第160号　«4000部発行»
発行/株式会社溝口祭典　発行人/溝口勝巳　〒192-0063 八王子市元横山町2-14-19　℡042-642-0921